

米国 消費抑制と融資基準厳格化により減速（08年4月消費者信用残高）

発表日：2008年6月17日（火）

～税還付の影響で当面は減速が続こう～

第一生命経済研究所 経済調査部

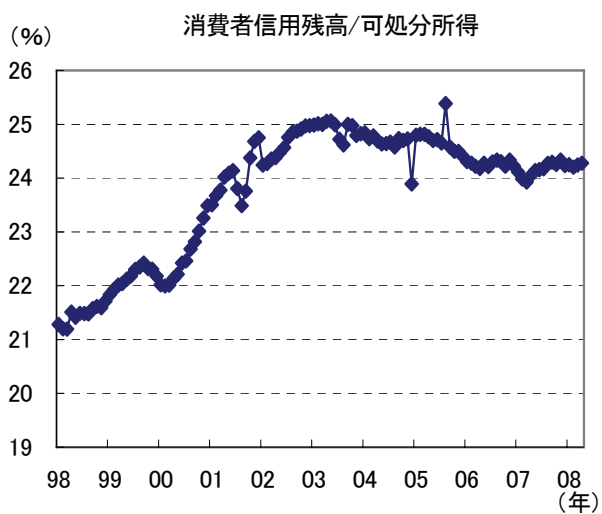
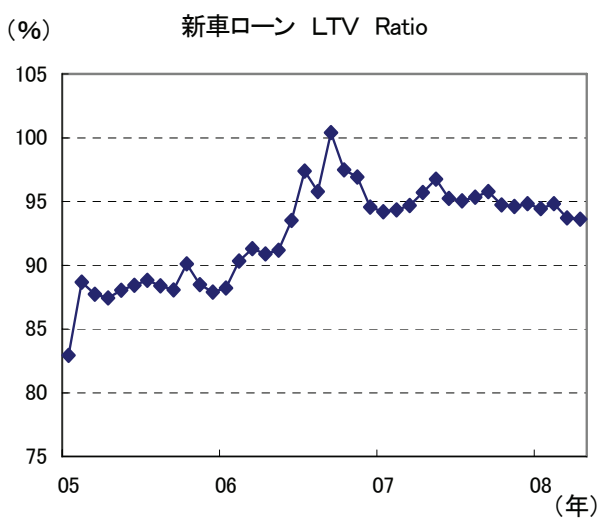
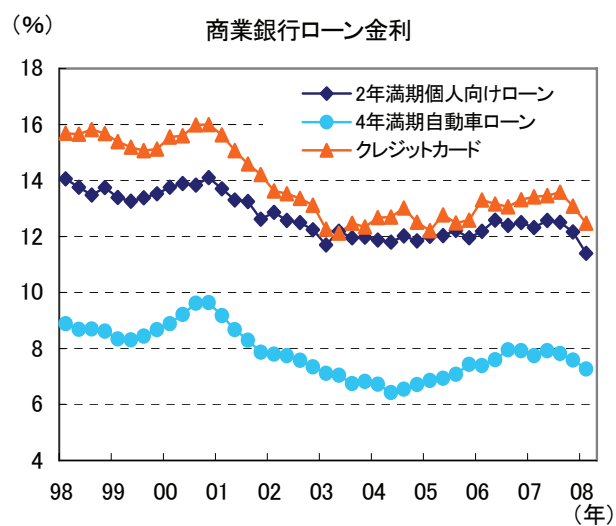
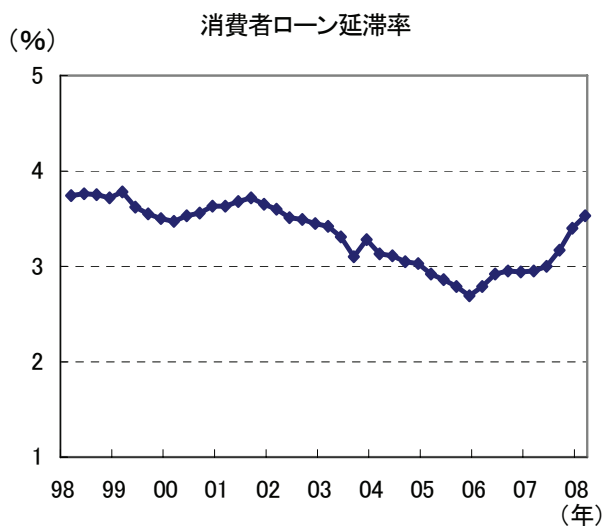
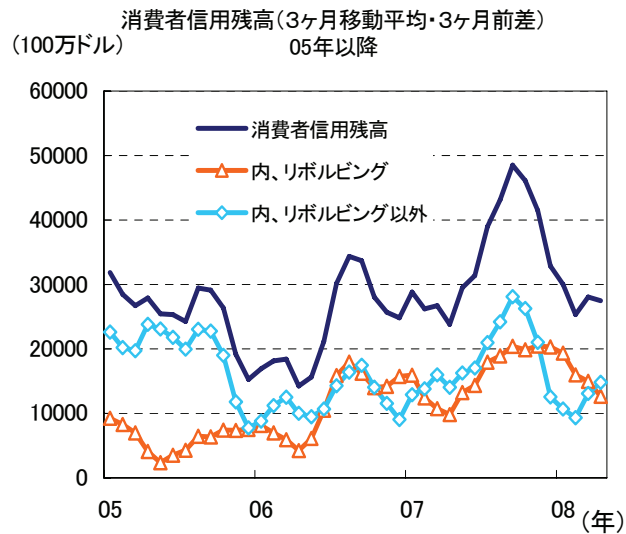
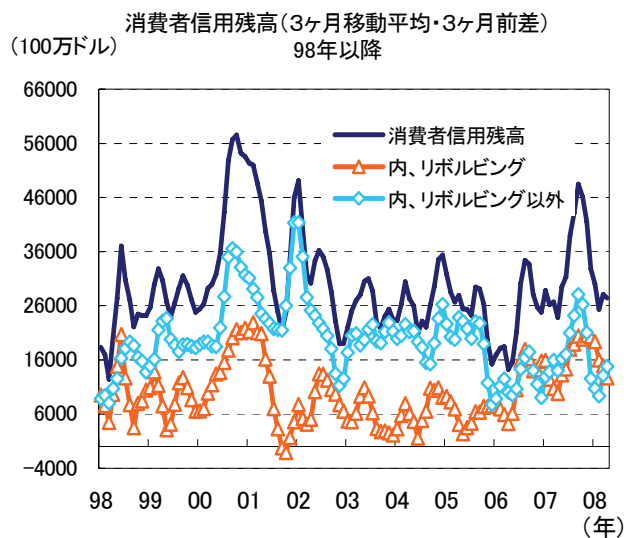
近江澤 猛(おおみさわ たけし)

03-5221-4526

- 08年4月の消費者信用残高（季節調整済）は2兆5649億ドル、前月比+89億ドル（前月比年率+4.2%）と前月の同+131億ドル（同+6.2%）から減速したものの、市場予想の前月比+72億ドルを上回った。3ヶ月移動平均・3ヶ月前差でみると、消費者マインドの悪化と融資基準の厳格化によって、07年10月以降減速基調が続いている。
- 内訳はリボルビング（クレジットカード等）が前月比+3億ドル（前月比年率+0.4%）と前月の同+58億ドル（同+7.4%）から大幅減速、リボルビング以外（自動車ローン、モービルホームローン、教育ローン等）は同+86億ドル（同+6.5%）と前月の同+73億ドル（同+5.5%）から加速した。3ヶ月移動平均・3ヶ月前差でみると、リボルビングは07年12月より5ヶ月連続の減速となった。消費者マインドの悪化と、融資基準の厳格化が続いており、リボルビングを利用しての消費行動は抑制されているものとみられる。一方、リボルビング以外は07年10月以降減速していたが、足元2ヶ月続けて加速した。これまで消費を抑制していた信用力の高い消費者が、ローン金利の低下も手伝って、ローンを利用した裁量的な消費を増加させたものとみられる。
- 7月にかけては所得税減税の還付金によって借入れ需要が減退しよう。また、金融機関のバランスシート調整が4－6月期決算まで続くものとみられ、その間は融資基準の緩和は期待できず、引き続き信用力の比較的低い消費者に対するローン貸出は抑制されよう。その後年末にかけては、所得税減税の効果は剥落するものの、金融機関のバランスシート調整がピークを過ぎ融資基準が緩和されることが予想され、比較的信用力の低い消費者層への貸出も徐々に増加していくものとみられる。以上のことから、消費者信用残高の増加ペースは7月にかけて緩やかに減速するものの、その後、08年年末にかけて徐々に加速することが予想される。

	消費者信用残高(10億ドル)			リボルビング(10億ドル)		リボルビング以外(10億ドル)	
		前月差	前月比年率(%)		前月差		前月差
07/07	2465.5	15.9	7.8	909.3	7.1	1556.2	8.8
07/08	2486.9	21.4	10.4	917.2	7.9	1569.7	13.5
07/09	2499.6	12.7	6.1	921.6	4.4	1577.9	8.2
07/10	2504.8	5.3	2.5	929.3	7.7	1575.5	▲ 2.4
07/11	2522.0	17.1	8.2	939.0	9.7	1583.0	7.5
07/12	2523.6	1.7	0.8	940.6	1.6	1583.0	0.1
08/01	2535.8	12.2	5.8	946.5	5.9	1589.2	6.2
08/02	2542.9	7.1	3.4	950.7	4.2	1592.1	2.9
08/03	2556.0	13.1	6.2	956.6	5.8	1599.4	7.3
08/04	2564.9	8.9	4.2	956.9	0.3	1608.1	8.6

（出所）FRB(連邦準備制度理事会)



(出所)FRB(連邦準備制度理事会)、Reuter EcoWinより当社作成